

走り遊び心を満たす要「軽快車」



HONDA STEP WGN SPADA

■テキスト=有岡 志信 (SAフォトワークス) ■Photo=川村 勲 (川村写真事務所) ■取材協力=ホンダカーズ北海道 手稲宮の沢店 Tel.(011)685-8811

プロフィール

■5代目となったミニバンの元祖

思えば1996年の初代ステップワゴンが登場した当時は、かなり衝撃的だった。なんてたって、日本市場に「ミニバン」という言葉が浸透していなかったし、今や死語になった商用車に代表されるような「ライトバン」なんていう言葉も、まだまだ現役だった。最大で8人が乗れる普通乗用車は凄いなと思ったのも今や昔。初代がリリースされたときのコピーで、テレビCMの「こどもといっしょにどこいこう」が今も耳に残るが、今や「まごといっしょにどこいこう」というユーザーもいるのでは。

ステップワゴンは、1997年から3年連続でミニバンの年間販売台数1位を獲得。2008年には国内累計販売が100万台を超えた。2010年にはミニバンの年間販売台数で1位に返り咲いたが、近年はトヨタの同カテゴリーに属するノア、ヴェオクシー、エスクアイア3兄弟の台頭もあり、少々勢いを失っていた。それだけに、今回の5代目のリリースは、ホンダとしてもかなりの本気度がうかがえる内容に仕上がっている。もちろんステップワゴンは5ナンバーサイズを基本とするミニバンの市場をけん引しているだけに、5代目のリリース直前は市場での話題も相当なものだった。

■すっきりした エクステリアデザイン

言葉とは裏腹に「ミニバン」は、大きいもの

ディーラーメッセージ

ホンダカーズ北海道 手稲宮の沢店
フロントスタッフ

小屋畑 あさみさん

新型ステップワゴンには、女性にも扱いやすいサイズで、パーキングにも入れやすい優しいクルマです。お子さまがおられる方にも、最適な一台ですね。これからの季節はアウトドアに行かれる方も多いと思いますが、荷物もたくさん積めるので思う存分、満喫できるパートナーになると思います。走りもかなり良いです。とても1500ccとは思えないパワフルな走りをしてくれます。ホンダが自信を込めて開発した新型エンジンも自慢のひとつです。

主要諸元：(STEP WGN SPADA-Cool Spirit 4WD)

- 全長×全幅×全高/4,735×1,695×1,855mm
- ホイールベース/2,890mm
- トレッド/前：1,470mm 後：1,485mm
- 車両重量/1,770kg
- 最小回転半径/5.7m
- エンジン/1496cc直4DOHCターボ
- 最高出力/150ps/5,500rpm
- 最大トルク/20.7kg・m/1,600~5,000rpm
- JC08モード燃費/15.0km/ℓ
- ミッション/CVT
- ブレーキ/前：Vディスク 後：ディスク
- タイヤサイズ/205/60R16
- 駆動方式/4WD
- 乗車定員/7名(8名)
- 車両本体価格(札幌地区)/3,081,400円(消費税込)

ステップワゴンには、先進の安全運転支援システムがオプション設定されている。7つの先進機能があり、緊急時の安全性を飛躍的に高めている。①衝突軽減ブレーキ(CMB S)②ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)③LKAS(車線維持支援システム)④路外逸脱抑制機能⑤誤発進抑制機能⑥先行車発進お知らせ機能⑦標識認識機能。ホンダは安全運転支援システムにおいては先駆者の存在で2002年にカメラを用

安全運転支援システムも充実

インプレッション

子どもたちの送迎で、運転に不慣れなママには重宝する「魔法のドア」みたいな存在だ。さらに、3列目シートの左側を倒すと、わくわくゲートからの乗降が可能になる。内部ドアにはロック機能もあり、クルマは後ろから乗る、ということがトレンドになるかもしれない。子どもも興味をひく魔法のドアだが、左右が狭ければ、後方から出るという実用的なドアだ。荷室下部の最低地上高は445mmなので、一般的には「よっこいしょ」という言葉が出るような感じではない。リアが分割されるゲートとあって、気になる後方の視界だが、思った以上にクリア。後部の最低地上高の低さもある、ルームミラーにはかなりの範囲が見渡せる。

まさに発想の転換で、ドアひとつでこれほどまでに快適なものになるとは。またしても個人的な印象で申し訳ないが、あえて「わくわくゲート」と呼ばせてもらうことにしたいですね、ホンダさん。

■新開発の1・5Lターボの爽快感

パワーユニットは、エスパダを含む全車種が新開発でホンダ車として初の直噴1・5LのVTECターボを搭載。先代が2・0Lだったため、かなりのダウンサイジングが図られた。デュアルVTC(連続可変バルブタ

だ」と認識している方も多くいる。ミニバンといえ、2・5〜3・0L級の高級感と存在感もある。ところが、このステップワゴンは全車5ナンバー。上級車種の「スパダ」は、全長が5ナンバーの規定を35mm超える4735mmのため、3ナンバーになる。とはいえ、全幅は全車種1695mmの5ナンバーサイズなので、どっしりとした雰囲気がない。クルマの前方からエクステリアをながめると、サイドが非常にシャープでスリムな中・長距離アシートのようないでたち。ミニバンにありがちな全幅が1800mmを超えるようなサイドの膨らみ感がない。引き締まっているボディでもある。

スパダはさらに精かな顔つきになる。フロントグリルには控えめにシルバメッキを施し、下部にもシルバメッキのバーが高級感を演出している。ここで、ひとつポイントがある。フロントフェースがともマイルドなのだ。乗用車に乗っていると、後方にミニバンが止まった場合、ルームミラーに威圧感のあるフェースが映る。最近のミニバンは、どうしてもフロントがキラキラして怖すぎ、という印象がある。歌舞伎の化粧の「隈取(くまどり)」みたいな。なので、ステップワゴンには新型になっても柔和な顔を失っていないのでホッとした。これは、個人的な印象なのだ。

■実は「わくわくゲート」という印象だ

新型ステップワゴンには、パワーユニットにも負けない注目点がある。荷室のリアのゲートが従来の縦開きに加えて、分割された左側のドアが横方向にも開く「わくわくゲート」だ。なぜ、今までなかったかと思うほどの優れたもの。これは非常に便利だ。荷室ゲートが縦方向に開くだけだと、壁や他車を後方にしての駐車がいづら。荷物を取り出す場合、必然的に駐車スペースへ「頭から突っ込む」ことになる。クルマを出す際、バックしなければならぬため、運転が不慣れだと、狭い駐車場ではひと苦労だ。特にスポーツをしてい

イミングコントロール機構)で低回転域でもトルクの厚みがある。エンジン性能は2・0L並みで、最大トルクを幅広い範囲で発生させるメカニズムだ。エンジン回転を大きくしなくても、日常生活でよく使う1600〜5000回転で最大トルクを発生する。スタートダッシュが快適で、力不足を感じさせない。これで先代と同じ150psをマークしている。

新開発エンジンは、エコの観点を十分に意識して誕生した。JC08モードは17・0km/L(FF車)とガソリン車でクラスNo.1(ホンダ調べ、2015年4月現在)。先代で最も燃費がいい車種が15・0km/L(2・0L、FF車)で、新型エスパダの4WD車と全く同じ。それを考えると、かなり優秀な成績といえる。ちなみに年間の自動車税も排気量が小さくなったので、家計にとっても金銭のエコにつながるという。またまた、個人的な思いだが、こちらの恩恵は本当にありがたいと感じてしまった。

■走りと室内空間はさらに良くなった

室内は引き締まったエクステリアとは反して先代より、ゆったりとした感じだ。実際に1〜3列目のヒップポイント間隔も40mm増えたことで、175cm未満の男性が6人乗車しても圧迫感がさほどないのでは。2列目は先代のベンチシートからキャブテンシートになったことで、シートの収納機能がなくなった。このため、2、3列目を簡単に荷室にすることができなくなった。3列目の座り心地も快適で、全体を通してシートの柔軟性が良くなり、長距離移動でも疲労が軽減されるだろう。

走りはミニバンを感じさせない軽快感がある。低重心のため、急なコーナーでもロールが予想以上に小さいのは驚いた。重さと重心の高さからくるミニバン特有の気合を入れてコーナーに突入、という感覚がなく、乗用車を運転しているフィーリングに近い。そんな峠道などでも、1・5Lエンジンで十分なパワーを見せてくれるから、運転していてもストレスを感じることが少ない。数字を見なければ、これが本当に1・5L車なのかと疑ってしまうほどの力強さを感じた。

新型ステップワゴンのリリースでトヨタ3兄弟、日産セレナを含め、ミニバンが再び活性化する気配も見え隠れする。今後の各車の切磋琢磨(せつさくま)におおいに期待したい。